

Ⅱ. 指導訓練事業（児童部門）

1. 概 要
2. 実 績
3. 個別指導・グループ指導
4. 世田谷区発達障害相談・療育センターとの連携
5. 保護者支援
6. スーパーバイズ

《児童部門》

1. 概 要

【目的】

発達・発育に遅れや障害のある乳幼児を対象に、豊かな成長を促し、日常生活の自立に必要な力や社会性を早期の段階から育てていくことを目的に相談・指導を行っている。

【形態】

- ① 運動機能やことばの遅れなど、障害の種別と発達段階に応じた指導を個別のプログラムに基づいて行う。(個別専門指導)
- ② 小集団での活動を通して、身の自立に向けた生活面の指導や言語・社会面の向上を目的に、年齢や発達段階に応じたグループを編成して指導を行う。(グループ指導)

【対象者】

指導の対象は区内在住で、発達や発育に遅れや障害のある未就学児とする。指導訓練は、保護者同伴通所を原則としている。相談は18歳までとする。

【相談から指導・訓練への流れ】

相 談

- ①電話または窓口で相談を受け付ける。相談の内容により医療機関等紹介する。
- ②療育を希望する場合は、初回面接日を予約する。

初回面接・発達検査



- ①相談員が、主訴、成育歴、家庭環境等の聴き取りを行う。
- ②臨床（発達）心理士が発達検査を行う。
- ③乳幼児の状態に応じて後日、言語聴覚士が聴力検査・言語評価を、理学療法士、作業療法士が運動評価を行う。

小児専門医相談



小児科の専門医による面談を行う。

カンファレンス



評価等の結果を総合し、処遇方針を検討する。

評価会議



カンファレンスで検討した処遇方針を決定する。
※26年度より「児童支援利用計画」を作成

指導・訓練の開始

「児童発達支援計画」に基づいた指導・訓練を行う。

2. 実 績

(1) 初回相談・インテーク・専門医相談・評価会議 (単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
初回相談	46	78	53	69	46	50	71	87	81	57	64	41	743
インテーク	32	32	32	28	32	30	30	27	30	27	29	31	360
専門医相談	34	32	31	36	27	25	35	33	33	25	28	35	374
評価会議	30	40	28	38	29	6	45	27	28	26	20	32	349

※専門医相談・評価会議は、平成25年度にインテークをしたケースも含む。

(2) 評価会議後の処遇一覧 (単位：人)

処遇	心理	言語	理学療法	作業療法	保育	評価G	終了他	計
人数	57	83	39	37	60	54	25	355

※複数の専門指導を受ける場合は、複数でカウントしている。

(3) 評価（ひよこ）グループ (単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延べ人数	46	26	10	11	23	26	26	18	6	2	12	20	226

※評価（ひよこ）グループは、専門医相談後のカンファレンスでグループ指導が適切であると決定したお子さんを対象に、該当グループを決定するための評価を行う。

(4) 検査・評価実績 (単位：人)

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
理学療法	新規	1	3	2	3	4	4	5	4	7	2	3	5	43
	再評価	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
作業療法	新規	12	9	8	8	10	8	8	6	7	3	14	20	113
	再評価	1	3	0	1	3	2	0	0	1	0	2	5	18
心 理	新規	32	32	32	28	32	28	30	27	29	27	28	31	356
	再評価	34	38	40	49	44	42	35	36	42	45	70	59	534
言 語	新規	26	30	41	33	29	29	24	27	25	17	31	33	345
	再評価	8	5	4	3	11	6	3	2	3	10	12	5	72
計	新規	71	74	83	72	75	69	67	64	68	49	76	89	857
	再評価	43	46	44	53	58	50	38	38	46	55	84	70	625

※新規は、インテークと他職種からの評価依頼を含む。

※複数の職種で評価した場合、主たる職種に計上している。

※言語は、聴力検査と言語評価を行っている。

(5) 指導内容別（延べ人数）

個別指導

(単位：人)

年度 \ 区分	理学療法	作業療法	心 理	言 語	栄養指導	計
26 法内 (児童発達支援)	1,746	1,279	1,699	1,646		6,370
26 法外 (児童機能訓練)	112	227	179	119	94	731
25 法内+法外	1,822	1,276	1,678	2,168	111	7,055

グループ指導

(単位：人)

年度 \ 区分	保育グループ	保育個別等	計
26 法内 (児童発達支援)	1,027	1,557	2,584
26 法外 (評価等)	226	10	236
25 法内+法外	3,876		3,876

3. 個別指導・グループ指導

《理学療法》

(1) 個別指導

頻度：個別4～1回/月、経過観察1回/2～4ヶ月（各45分/回）

指導内容

①身体機能	寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行、階段昇降等の発達促進 姿勢調整・保持能力向上促進
②摂食指導	摂食時の姿勢や口腔機能を確認 個別訓練指導の中で継続指導
③補装具・日常生活用具の活用・検討	バギー、座位保持椅子、下肢装具、頭部保護帽等の検討
④環境調整	自宅への訪問による、椅子等の物品の工夫 住宅改修の検討
⑤他機関との情報交換	連絡メモを通じて保育園等との情報交換

(2) 評価ケース〈46 ケース内訳〉

疾患別	
1. CP群	4
2. 後天性脳障害	1
3. 水頭症	0
4. てんかん	1
5. 神経・筋疾患	0
6. 奇形症候群	2
7. 染色体異常	20
8. 脊髄疾患	0
9. PMR	7
10. 自閉症スペクトラム	1
11. MR	8
12. 運動発達障害	0
13. その他	2

出生時体重・周産	
低出生体重児	18
極低出生体重児	1
超低出生体重児	2
早産児	12
超早産児	2

処遇	
4/M	0
3/M	0
2/M	29
1/M	10
経過観察	3
評価のみ	4

医療ケア	
気管切開	1
酸素（常時）	1
胃ろう	1

(3) 訓練ケース〈149 ケース内訳〉

疾患別	
1. CP群	17
2. 後天性脳障害	2
3. 水頭症	0
4. てんかん	2
5. 神経・筋疾患	0
6. 奇形症候群	5
7. 染色体異常	71
8. 脊髄疾患	4
9. PMR	21
10. 自閉症スペクトラム	0
11. MR	12
12. 運動発達障害	2
13. その他	13

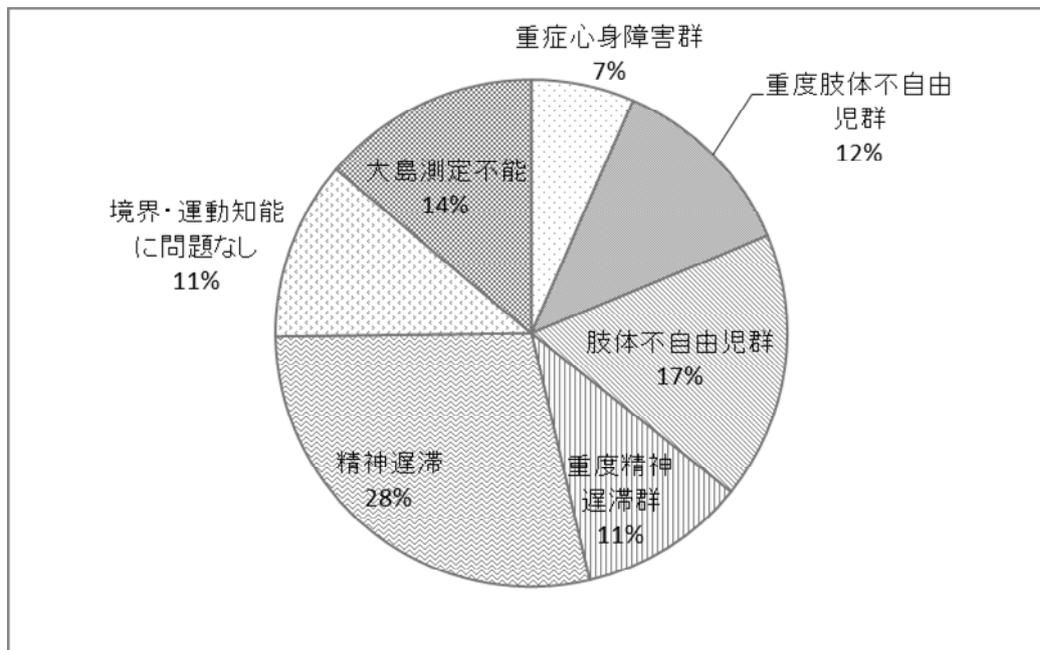
出生時体重・周産	
低出生体重児	39
極低出生体重児	5
超低出生体重児	10
早産児	25
超早産児	8

処遇	
4/M	12
3/M	3
2/M	85
1/M	20
経過観察A*	25
経過観察B*	4

*：経過観察A：2ヶ月毎
経過観察B：3～4ヶ月毎

大島の分類**に基づく重症度分類（年度末時点での訓練ケース）

**：府中療育センター大島元院長が発表した重症心身障害児の区分



(4) その他相談・指導（理学療法士・作業療法士が関わった件数）

相談・指導	件数
住宅改修相談 延べ件数	8
補装具相談 福祉用具相談	15
訪問指導	1

(5) スーパーバイズ

目的：評価・訓練・指導について知識・技術の向上をはかる。

内容：月1回、指導場面をみていただき、終了後にカンファレンスを行って、意見交換をし、アドバイスを受ける。

《作業療法》

(1) 個別指導

頻度：個別 2～1回／月、経過観察 1回／2～3ヶ月（60分／回）

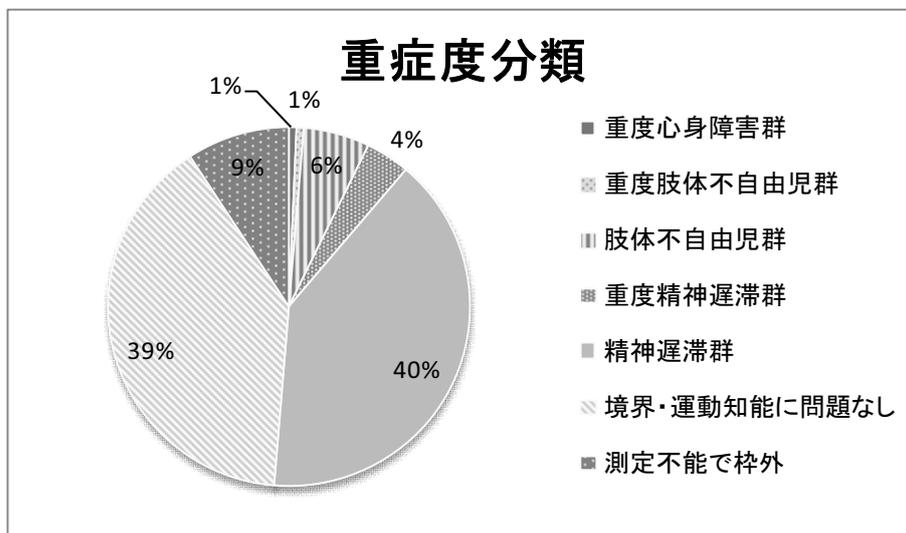
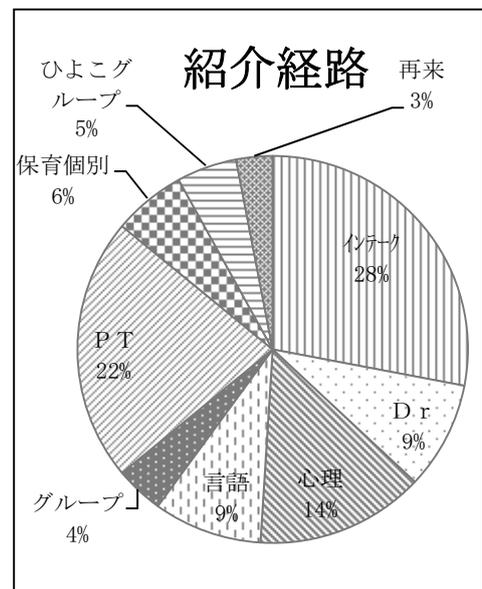
指導内容

①粗大運動	バランスや協調運動、感覚調整能力の向上促進
②手操作	巧緻動作の向上促進、道具操作能力向上促進
③日常生活動作	食事・更衣等の動作の向上促進
④摂食指導	D r . 診察に同席し、摂食時の姿勢や口腔機能を確認 個別訓練指導の中で継続指導
⑤補装具・日常生活用具の活用・検討	バギー、座位保持椅子、保護帽等の検討
⑥環境調整	自宅への訪問による、椅子等の物品の工夫 住宅改修の検討
⑦他機関との情報交換	連絡メモを通じて保育園等との情報交換

(2) 評価ケース〈152 ケース内訳〉

疾患別	
1. CP群	7
2. 後天性脳障害	0
3. 水頭症	1
4. てんかん	1
5. 神経・筋疾患	0
6. 奇形症候群	7
7. 染色体異常	32
8. 脊髄疾患	0
9. PMR	23
10. 自閉症スペクトラム	48
11. MR	20
12. 運動発達障害	2
13. その他	11

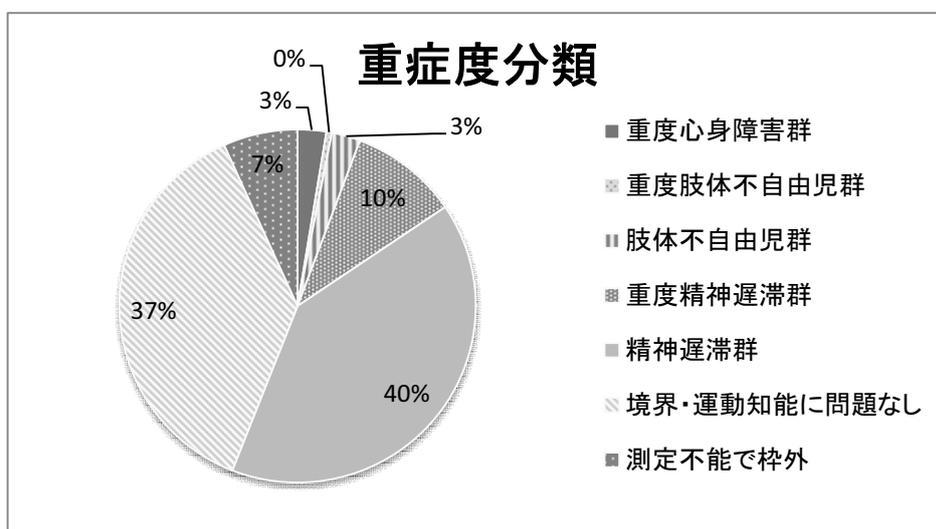
処遇	
月 2 回	7
月 1 回	57
経観 A	20
経観 B	3
いずれ再評価	13
再評価のみ	40
相談	12



(3) 指導ケース〈193 ケース内訳〉

疾患別	
1. CP群	20
2. 後天性脳障害	4
3. 水頭症	1
4. てんかん	2
5. 神経・筋疾患	2
6. 奇形症候群	7
7. 染色体異常	60
8. 脊髄疾患	0
9. PMR	32
10. 自閉症・PDD	38
11. MR	12
12. 運動発達障害	6
13. その他	9

処遇	
2/M	9
1/M	135
経過観察	49



(4) スーパーバイズ

① 補装具・福祉用具

内容：制度等の基礎知識から事例検討を通じて相談技術を学ぶ。

② 感覚統合

内容：ケース検討を通して感覚統合療法の視点に基づいた助言（4 ケース）

- ア 「誘いに応じられるが共感性の乏しい3歳児」
- イ 「行動コントロールが難しく、粗大運動・手操作ともに不器用さのある5歳児」
- ウ 「お友達とうまく遊べない多動・衝動性の高い5歳児」
- エ 「固有覚刺激の取り込みが多くみられる3歳児」

《心理》

(1) 個別指導

頻度：個別1回／月、経過観察1回／2～3ヶ月（60分／回）

指導内容

①認知課題	概念やカテゴリーの理解 模倣性の向上
②言語コミュニケーション課題	やりとり性の向上 コミュニケーション手段の獲得（要求・意志表示等） 言語理解の促進
③社会性の課題	遊びのルール（交替・順番等） あいさつや社会的マナー
④手操作課題	はさみ・のり・筆記具等の扱い方
⑤就学に向けての課題	ひらがなの読み書き

相談内容：保護者の精神保健へ配慮しながら、子どもへの対応の助言・障害理解の促進を行う。
また就園・就学に向けた情報提供や支援を行う。

* 複数指導：11月より開始

目的	① 子どもへの指導では複数での活動（遊びや学習）を通して、他児とのコミュニケーションスキルを学習するとともに、対人関係や自己肯定感を育む。 ② 指導を通して、集団に参加する際に必要な配慮を保護者と考える。
構成・対象	【構成】 ・個別指導の枠内で、組合せ可能な児童で実施。
	【対象とする子ども】 知的に軽～境界域の遅れの児童。4歳児、5歳児。 ・大人と1対1の場面では応じる力があり、認知面での改善が認められ、他児との活動を経験することが必要と思われるケース。
	【人数】 子ども：2-3名 担当心理士：2-3名
内容	《子ども》 ルールあそび 役割あそび 協力しあう課題 先生の説明を理解し、模倣することばあそび（挙手し、答える） など 《保護者》 部屋内や観察室から見学。 子どもの指導後、保護者へフィードバック。

(2) 心理評価

検査バッテリー

新版K式発達検査2001、田中ビネー知能検査V、WISC-III知能検査、WPPSI知能検査、遠城寺式分析的発達検査法

*H27. 3月よりWISC-IV知能検査を随時導入

① インテーク

年間 360 枠 + 臨時枠

② 再検査：

年間 679 枠

③ 処遇検討のための心理評価（行動観察による評価）

年間 40 枠

(3) スーパーバイズ

第1回 6月13日	『技術支援における事前資料の読み取り方、行動観察のポイント』 『保育士・幼稚園教諭へのフィードバックの方法について』
第2回 11月13日	『新BOPへの巡回訪問および運営相談の進め方』 - 学齢期の理解と対応、グレーゾーンの児童とその保護者への対応 -

《言語》

(1) 個別指導

指導内容

言語理解	聴理解・認知理解の向上
言語表出	語彙力・説明力・文の構成力の向上 構音の改善・吃音の軽減
コミュニケーション	ことばのやりとりの向上 ルールの理解（役割交替・ゲームや遊びでの会話のルール）

頻度：個別1回/月 経過観察1回/2~3か月（60分） 年長児の構音指導2回/月（30分）

(2) 言語グループ

① グループ実績

実施回数	指導実人数	延人数
5	6	30

② グループ概要

グループ名	ケーキ（４・５歳児）	定員	6名
体制	言語聴覚士2名		
対象児	知的能力は正常域だが、聴覚的理解力と視覚的理解力の個人内差が大きい児		
目標	1) 小集団の中で考え、答える力を身につける 2) 視覚的なヒントを活用しながら、聴覚的理解力の向上を図る 3) 集団で学習するときのルールを身につけ、行動する 4) ルールのある遊びを友達と一緒に楽しむ		

(3) 言語プール

① 指導目的

- ア 親子で一緒に活動することで、自然なスキンシップを促し、親子関係を深める。
- イ 呼吸を整え、口腔を意識して動かすことで、発声・発音の基礎を作る。
- ウ 水中でリラックスしながら、自然に言葉を引き出し、コミュニケーション意欲を育てる。

実施回数	指導実人数	延人数
15	12	55

(4) 言語評価

① 初回相談・聴力検査再検

	検査バッテリー	目的
聴覚	COR/Peep Show/Play/ 標準純音聴力検査 ティンパノメトリー	ことばを聴いて覚える幼少期に聴覚の問題があると、ことばの発達に影響を及ぼす可能性があるため、聴力低下や中耳炎の有無を確かめる。
言語表出・言語理解・構音	ことばのテストえほん	言語理解・表出・構音・状況説明等が総合的に確認できる検査。
	絵画語彙発達検査 (PVT-R)	理解語彙年齢が算出できる簡易な検査。名詞だけでなく抽象語の理解をみることもできる。
	構音検査	構音の誤りの有無や発声発語器官の運動の状態を確認できる検査。
	吃音検査法	吃音を客観的に評価し、症状を分析することができる検査。
コミュニケーション態度	検査場面の様子を観察	アイコンタクトの有無、対人意識の有無、要求の方法、応答性などのコミュニケーション態度を観察。
問診	家族歴 (吃音・難聴の有無など) 既往歴	きこえやことばについての相談を受けたり、家庭での様子を確認する。

※初回接見時の状況や発達段階により検査内容に変更あり

② 言語相談・処遇変更

言語理解、言語表出、コミュニケーションについて教材を用いて確認し、評価方法として、構音検査・絵画語彙発達検査・S-S法検査・ITPA・LCスケール・吃音検査法等を実施している。

(5) スーパーバイズ

第1回 6月24日	『子音の省略により著しく発話明瞭度の下がる3歳児』 『全般的な遅れの見られる双胎の1児』
第2回 10月28日	『吃音を主訴に來所した発達障害児一例の検討 —行動面への対応から吃音症状への対応へ—』 『吃音を主訴として当センターを訪れた児の初回評価について』

《保育個別指導》(月2回、1時間)

(1) 指導目標

- ・子どもの自発的な姿を大切にしながら大人との対人意識を育む。
- ・遊びの共有や大人の誘い掛けに応じる力をつける。
- ・様々な遊びを経験し、楽しめる遊びの幅を広げる。
- ・保護者からの子育て相談を受け、遊び方や対応方法を提案する

(2) 指導の流れ

子どもの状態像や発達段階に合わせた指導を行う。

- ① 職員との関係作り、大人と楽しめる遊びを見つける



- ② 一つの場所や物で遊ぶ経験をする



- ③ 見通しを持てる遊びに取り組む



- ④ 自分から要求を出す



- ⑤ 大人の誘い掛けからやりとり、切り替えを行う

(3) 内容

運動遊び 玩具遊び 感触遊び スキンシップ遊び 机上課題等

(4) 指導実績

実人数	延人数
121	1,557

(5) その他の取り組み

- ・複数指導（2～4人、1時間） ※後期実施。

目的…友だちとの活動の中で興味を持てるものを増やす。

幅広い活動に取り組めるようになる。

- ・スーパーバイズ ※年間2回実施

スーパーバイザー 大石 幸二先生

平成26年4月24日（木）	① 指導の目的、流れの組み立て方について ② 流れ、次の段階への見極めのポイント
平成26年10月9日（木）	事例検討、質疑応答、意見交換

《保育グループ》

(1) 指導目標

グループ指導を通して、身の自立や集団生活に必要な社会適応能力を高め、よりスムーズに集団に参加できるよう援助する。

(2) グループ編成

年齢や発達状況に応じてグループ編成を行っている。グループの決定は、評価（ひよこ）グループに参加し、適したグループを決定する。

前期 グループ編成と実績

(単位：人)

	時間帯	グループ名	頻度	定員	実人数	延人数
2歳児	9：45～ 11：15	いぬ	月2回	8	5	31
		ねこ		8	6	28
		りす		8	6	39
3歳児	9：45～ 11：15	うさぎ	月2回	8	6	61
		こあら		8	3	23
	13：45～ 15：15	きつね	月2回	8	4	29
		ねずみ		8	6	42
		ひつじ		8	4	20
4歳児	14：00～ 15：30	らいおん	月2回	8	3	19
5歳児	13：45～ 15：15	ほし	月2回	8	5	47
計					48	339

	時間帯	グループ名	頻度	定員	実人数	延人数
2歳児	9：45～ 11：15	くま	月2回	8	8	53
		ぞう		8	7	57
		いぬ		8	8	75
		りす		8	7	52
		ねこ		8	6	51
3歳児	9：45～ 11：15	ねずみ	月2回	8	8	63
		ぱんだ		8	7	55
	13：45～ 15：15	こあら きつね うさぎ	月2回	8 8 8	6 8 6	66 58 58
4歳児	13：45～ 15：15	たいよう	月2回	8	6	58
5歳児	13：45～ 15：15	つき	月2回	8	5	42
計					82	688

(3) グループ指導の概要

期 間	基本的には6か月（同グループでは1年）
職員体制	保育士
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具を使っての運動あそび ・手操作玩具 ・着席課題 ・感触遊び（粘土・砂・豆） ・製作（はさみ・のり・シールなど） ・描画（ペン・クレヨン・絵の具等など） ・水あそび（夏季のみ）

(4) グループ指導の流れ

《支 度》	<p>◎シールを貼る、自分のマークの場所にカバンを掛ける等の支度を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことを自分でしようとする力を育てる。 ・活動の「始まり」を意識し、物の所有の認識も育む。
《あそび》	<p>◎様々な道具や遊具を使って遊び、色々な感触に触れる経験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通して集中力を育み、興味の幅を広げる。 ・手先の巧緻性や、目と手の協応動作等を遊びの中で育む。 ・大人とのやりとりの中で、発語や言葉の理解を促す。 <p>◎大人と一緒に、全身を使って遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人と一緒に遊ぶ中で、身体を動かす楽しさを伝える。 ・粗大運動を十分経験する事で、身体づくりをする。

《集 合》	<p>◎友だちと一緒に一定時間着席課題に参加する。</p> <p>☆あいさつ</p> <p>☆スキンシップ</p> <p>☆簡単な体操・リズム・模倣遊び</p> <p>☆簡単なゲーム遊び</p> <p>☆おはなし などの活動を通して、着席姿勢を育む。</p> <p>・大人の簡単な指示を理解して行動し、大人の働きかけに応じる経験をする。</p> <p>・人や物に注目し、応答姿勢を育む。</p>
《帰りのあいさつ》	<p>◎簡単な手遊び、帰りの歌を歌う。</p> <p>・活動の「終わり」を意識する。</p>

4. 世田谷区発達障害相談・療育センターとの連携

世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」と総合福祉センターでは、各々の専門性を生かした相談、療育を行っている。

社会性・コミュニケーションスキルの獲得等を目的とした療育が必要な児童については、世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」への移行を行っている。

平成26年度移行人数	75人
支援後の移行	65人
新規評価後の移行	10人

5. 保護者支援

先輩お父さんお母さんの話を聞く会

保護者支援の一環として、総合福祉センターを利用していた保護者の体験談を通じ、進路選びについて情報を得る機会を設けている。

実施日	内 容	参加人数
5月15日	就学について（第1回）	50人
5月23日	就学について（第2回）	38人
6月10日	就園について	54人

6. スーパーバイズ

各専門職のスキルアップのため、スーパーバイズを依頼している。

対 象 職 種	スーパーバイザー	回数
理学療法士・作業療法士	前心身障害児総合医療療育センター 理学療法士 原 泰夫 氏	月 1 回
作業療法士	うめだ・あけぼの学園 作業療法士 坂井 氏	年 2 回
心理士	立教大学現代心理学部 教授 大石 幸二 氏	年 2 回
言語聴覚士	文教学院大学人間学部・大学院人間学研究科 准教授 柄田 毅 氏	年 2 回
保育士	立教大学現代心理学部 教授 大石 幸二 氏	年 2 回
相談支援	神奈川LD協会 臨床心理士 温泉 美雪 氏	年 3 回